

# 韓国語と日本語の終助詞と終結語尾の情報管理機能について<sup>1</sup>

## The information management of sentence-final expressions including endings and particles in Korean and Japanese

金 善美

KIM Sunmi

### 1. 問題提起：日本語終助詞「ね」「よ」の情報管理機能(information management)とは？

(1) A: 手伝ってくれよ。

B: 俺は、いやだね<sup>2</sup>。 (田窪・金水 (1996))

例(1)のような「拒否・拒絶」の文脈で用いられる「ね」は「いかなる自己確認、自己説得を経てもこの回答しか出て来ない」という含意があるからこそ強い「拒否・拒絶」となり得る。言下の拒絶であっても、「手伝うのはいやかどうか」について自分自身の中で「検討を経た」という身ぶりが「ね」によって表されている(田窪・金水(1996))。

(2) a. 雨が降ってる。

b. 雨が降ってるよ。 (田窪・金水 (1996))

例(2a)は単なる事実の認識報告であるが、例(2b)には、<出かけるなら傘を持って行きなさい>、<洗濯ものを取り込んでちょうだい>、<野球のナイト・ゲームは中止だからテレビをつけなくてよい>など、状況に応じて様々な推論を発火させる意図が込められている(田窪・金水 (1996))。

例(1B)の「ね」が伝える「自分自身の中で「検討を経た」という身ぶり」、例(2b)の「よ」が伝える「状況に応じて様々な推論を発火させる意図」とはともに、田窪の談話管理理論の延長線にある情報管理機能(information management)である。田窪の談話管理理論は、田窪(1987, 1989, 2006)、田窪・金水(1996)、Takubo & Kinsui (1997)において提案された。田窪(2006)の談話管理理論は、言語表現の意味を認知主体としての話し手、聞き手の知識状態

---

<sup>1</sup> 本稿は2018年10月7日に開催された朝鮮学会第69回大会(於:天理大学)において口頭発表した内容を修正・加筆したものである。当日の発表会場において有意義なコメントをくださった方々、本稿に対して貴重なコメントをくださった玉井尚彦氏、千田俊太郎氏に感謝申し上げます。尚、本研究はJSPS 科研費19K00618の成果の一部である。

<sup>2</sup> 韓国語例文における下線は本稿の筆者による。例文の下線の種類として終結語尾には“  ”を、終助詞には“  ”を引いて区別している。以下同様。

の変化としてモデル化したものである。田窪の談話管理理論においては、談話領域を R-領域(すでに真偽が決定している領域)、I-領域(真偽の決定していない命題からなる領域)に分割し、さらに R-領域を D-領域(真偽が決まっており、話し手がそれを直接知っている命題からなる領域=直接経験領域)と R-D 領域(R から D を引いた部分、すでに真偽が決定しているが話し手が真偽の値を知らない状況)に分割する。この談話管理理論から導かれた情報管理機能(information management)とは、話し手や聞き手に対して事態認識上の分析・感嘆・驚き・確認という情報を再認識させる役割をする(田窪行則氏とのパーソナル・コミュニケーション)。

(3) 今日はいいお天気ですね。 (田窪・金水 (1996))

(4) 今日はいいお天気だなあ。 (田窪・金水 (1996))

ところで例(3)と例(4)において「いい天気だ」という結論はともに、話し手の直接経験世界に属する自明な結論として出てくるものであり、例(3)の「ね」はこのような結論を導出するための「トリビアルな計算操作をしたことの標識」である(田窪・金水(1996))。また例(4)の「なあ」は独り言的な感嘆文の中で出現しているが、聞き手を想定する必要のない、話し手に帰属する情報を自分に再認識させている役割をする。

それでは、例(4)のような独話において出現する日本語の終助詞と同様の役割を韓国語の終助詞は果たすのであろうか。

(5) a. ?<sup>3</sup>たくさん食べましたなあ。 (日本語記述文法研究会 (2003: 263))

b. manhi-to { # mek-ess-ney-yo/ # mek-ess-supnita-kulye}<sup>4</sup>.

沢山-も {食べる-過去時制-終結語尾-終助詞/ 食べる-過去時制-聞き手敬語語尾-終助詞}

「たくさん {#食べましたね/ #食べましたなあ}。」

例(5b)において韓国語では終結語尾「ne (네)」は終助詞「yo (요)」を伴い、丁寧形として出現可能であるが、丁寧形になると独話的ではなくなる。また終助詞「kulye (그러)」を使って聞き手に対する親近感を伴う詠嘆を表すことができるが、独話では「kulye」は出現しない。終助詞「kulye」を使うと聞き手への伝達を意図することになるため、終助詞「kulye」のついた文は対話的な性質しか持ちえないのである。例(5b)で終助詞「yo」や「kulye」をつけず、また聞き手敬語を表す終結語尾の「supnita」を外した以下の例(6)は独話として成立する。

<sup>3</sup> ここでの文法性の判断の「？」は日本語記述文法研究会 (2003: 263) によるものである。例(5a)がおじさんキャラとしての発話なら容認度の面でさほど不自然ではないと本稿の筆者は考える。

<sup>4</sup> 韓国語のローマ字表記は、S. E. Martin による Yale 式ローマ字表記を用いる。

(6) [テーブルに置いてあったお菓子が大分減ったのを見て独話で]

manhi-to mek-ess-ney.

沢山-も 食べる-過去時制-終結語尾

「たくさん食べたなあ。」

本稿では、このような韓国語と日本語の独話を中心に、そこに出現する終助詞と終結語尾の持つ情報管理機能(information management)について考察する。

## 2. 韓国語の終助詞および類似の表現：「yo(요)」、「kulay(그래)」、「kulye(그러)」

韓国語において従来、終助詞と言えるのは丁寧形（聞き手に対する敬意）を表す「yo」のみであるといわれてきた。本稿では「yo」に加え、「kulay」と「kulye」について考察を行う。

### 2. 1 「yo」

韓国の国立国語研究院(1999)の『표준국어대사전』(phyocwunkwuketaysacen, 標準国語大辞典、以下の例文では『標』と表記)は「yo」について次の二つの用法に分けて説明している。第一に、おもに非丁寧体 hay 体終結語尾や一部 hakey 体終結語尾の後ろにつき、聞き手に尊敬の意味を表す補助詞だと説明している。格式張った敬語を使うべき相手には使わない、とも説明している。

(7) ton-i eps-e-yo. (『標』)<sup>5</sup>

お金-が ない-非丁寧体 hay 体終結語尾-終助詞

「お金がありません。」

(8) kicha-ka cham ppalli ka-ci-yo. (『標』)

汽車-が 本当に 早く 行く-終結語尾-終助詞

「列車が本当に速く進みますね。」

(9) enni, na-lul molu-keyss-e-yo? (『標』)

姉 私-を 知らない-未来時制-非丁寧体 hay 体終結語尾-終助詞

「姉ちゃん、私が分かりませんか。」

第二に、体言や副詞、接続語尾に後続して聞き手に尊敬の意味を表す補助詞だと説明している。

(10) maum-un-yo teepsi coh-a-yo. (『標』)

気分-は-補助詞 この上なく 良い-非丁寧体 hay 体終結語尾-終助詞

---

<sup>5</sup> 下線と韓国語のローマ字表記、及び日本語訳は本稿の筆者による。以下同様。

「気分はですね、この上なく良いです。」

(11) kulehkey hay cwu-si-ki-man ha-myen-yo

そのように して くれる-尊敬-名詞化語尾-だけ する-假定-補助詞

cengmal kamsa-ha-keyss-e-yo. (『標』)

本当に 感謝-する-未来時制-非丁寧体 hay 体終結語尾-終助詞

「そのようにしてさえくさればですね、本当に感謝いたします。」

上記の二つの用法とも文節に後続する点から、本稿で考察する終助詞だと見なすことができる。

## 2. 2 「kulay」

『표준국어대사전』(phyocwunkwuketaysacen, 標準国語大辞典)は「kulay」について次の二つの用法に分けて説明している。第一に、感嘆詞としての「kulay」である。肯定の答えとして使われたり(例(12))、相手の言葉に対する感嘆や軽い驚きを表す時(例(13))、問い詰めたり強調するときに使われ、主に疑問文の中に挿入されて使われる時(例(14), (15))があると説明する。感嘆詞として使われる際は、分ち書きされる。

(12) ung, kulay. (『標』)

うん そうだ

「うん、そうだよ。」

(13) kulay? ku mal-un cheum tutnuntey! (『標』)

そうなの その 言葉-は 初めて 聞くけど

「そうなの？その言葉は初めて聞くけど！」

(14) nay-ka, kulay, amwulemyen ku salam-eykey ci-keyss-ni? (『標』)

私-が 感嘆詞 まさか あの 人-に 負ける-未来時制-語尾

「私が、さ、まさかあの人に負けるわけじゃない。」

(15) i sanghwang-eyse, kulay, nolle kaca-nun mal-i nao-ni? (『標』)

この 状況-で 感嘆詞 遊びに 行こう-という 言葉-が 出てくる-語尾

「この状況で、ね、遊びに行こうという言葉がどうやって出てくるの。」

例(15)のような用法は、次の例(16)のように相手を非難する文の中で頻出する。

(16) cal hanta, kulay.

よく やる 感嘆詞

「よくやってくれたよ(=なんてことするんだよ)、もう」

第二に、「kulary」は、「kwumen (구먼)」、「kwun(군)」のような非丁寧体 hay 体の終結語尾に後続し、聞き手に文の内容を強調していることを表す補助詞（本稿における終助詞）だと説明している。この際は分かち書きをしないし、「kulary」は「-kwumen」、「-kwun」の意味を補う働きをもつ。

(17) caney onul-un kipwun-i coha poinun-kwumen-kulary. (『標』)

君 今日-は 気分-が よい そうだ-終結語尾-終助詞

「君、今日は気分がよさそうだね。」

(18) kukes-cham sinthongha-kwun-kulary. (『標』)

それ-本当に 感心する-終結語尾-終助詞

「それは本当に感心したね。」

### 2. 3 「kulye」

『표준국어대사전』(標準国語大辞典)は「kulye」について次のように説明している。「kulye」はスピーチレベル上の非丁寧体の hakey 体、中称体の hao 体、丁寧体の hapsyo 体の一部終結語尾に後続し、聞き手に文の内容を強調していることを表す補助詞としての用法のみが指摘されている。

(19) ilcwiil cen-ey naka-ssten nom-i iceyya tolawa-ss-ney-kulye. (『標』)

一週間 前-に 出る-ていた やつ-が やっと 帰る-過去時制-終結語尾-終助詞

「一週間前に出ていたやつがいまになってやっと帰ってきたね。」

(20) kathi ka-sey-kulye. (『標』)

一緒に 行く-勧誘下称体終結語尾-終助詞

「一緒に行こうよ。」

(21) aphulo-nun cacwu manna-psita-kulye. (『標』)

これから-は 頻繁に 会う-勧誘上称体終結語尾-終助詞

「これからは頻繁に会いましょうよ。」

### 3. 「kulary」は終助詞か：「kulary」と「kulye」について

上記の 2.2 節の「kulary」と 2.3 節の「kulye」に関する『표준국어대사전』(標準国語大辞典)の記述によると、本稿における終助詞としての機能のみを持っているのは「kulye」の方である。한용운 hanyongwun (2003: 158-161)では「kulary」と「kulye」を考察し、従来の辞書で「-kwumen, -kwun, -ci」等に後続する助詞だと見なされてきた「kulary」は助詞ではなく、先行する言語表現を代用する、用言の活用形だとしている。つまり「kulary」は動詞語幹「kuliha-」や、形容詞語幹「kuleh-」に語尾「-e」が結合した用言の活用形だとい

とである。その根拠として「kulary」は次のように活用が可能だという。

(22) a. motun salam-tul-i ta {kulary, kulaysse}.

全ての 人-複数接尾辞-が みんな {そのように言う そのように言った}

「全ての人々がみんな {そのように言う、言った}。」

b. ku os-un saykkal-i com {kulary, kulaysse}.

その 服-は 色-が ちょっと {あれなの あれだったの}

「その服は色がちょっと{あれなの(良くないの)、あれだったの(良くなかったの)}。」

c. ku mwulken caney-ka sa-keyss-tako haci {kulary, kulaysse, kulaysna}.

その 品物 君-が 買う-未来時制-と 言えば{いいのに よかったのに よかったではないか}

「その品物、君が買うと 言えば{いいのに、よかったのに、よかったではないか。}」

(한용운 hanyongwun (2003:158)、日本語訳は本稿の筆者による。)

一方、「kulye」は例(22)のような活用ができない助詞だと説明し (한용운 hanyongwun (2003:158))、現代韓国語において動詞語幹「kuliha-」や、形容詞語幹「kuleh-」の活用形は「kulye」にはならないと説明する (例(23))。

(23) cip-ey ka-l sikan-i ta toy-ess-ney-{kulye,

家-に 帰る-未来連体形 時間-に そろそろ なる-過去時制-終結語尾-{終助詞ね

\*kulayssni, \*kulaysse}.

のだったね のだった}

「家に帰る時間にそろそろなった {ね、\*のだったね、\*のだった}。」

(한용운 hanyongwun (2003:158)、日本語訳は本稿の筆者による。)

さらに、用言の活用形は副詞の修飾を受けることが可能なのに対し、「kulye」は、以下の例(24)のように、元の意味を保ったままで否定副詞「an」の修飾を受けるのは不可能だとしている。以下の例(24)を見られたい (한용운 hanyongwun (2003:158-159)の例を一部修正)。

(24) a. cip-ey ka-l sikan-i ta toy-ess-ney-kulye.

家-に 帰る-未来連体形 時間-に そろそろ なる-過去時制-終結語尾-終助詞ね

「家に帰る時間にそろそろなったね。」

b. cip-ey ka-l sikan-i ta toy-ess-ney. an kulye?

家-に 帰る-未来連体形 時間-に そろそろ なる-過去時制-終結語尾 否定副詞 そうだ

「家に帰る時間にそろそろなったね。そうじゃない？」

한용운 hanyongwun (2003:158-159)も説明しているように、例(24a)の「kulye」は終助詞として機能しているが、(24b)の「kulye」は動詞活用形の意味になるとしている。すなわち、(24b)の「kulye」は、例(24a)の「kulye」とは意味が異なる。

さらに한용운 hanyongwun (2003:160)は、現代韓国語において「kulye」は、スピーチレベル上の非丁寧体の hakey 体、中称体の hao 体、丁寧体の hapsyo 体文の終結語尾「-ney, -tey, -na, -so」等に後続することも指摘している。한용운 hanyongwun (2003)の主張は妥当であり、本稿もこれにならって「kulay」は用言の活用形、「kulye」は終助詞とみなす。

以上の考察から本稿では、現代韓国語における終助詞は「yo」と「kulye」のみを認定する。またそれぞれの用法として、終助詞「yo」は尊敬の意味、「kulye」は先行文脈の強調、とする。

次にここからは日本語の終助詞との比較検討を行う。

#### 4. 独話で現れる日本語の終助詞と、対応する韓国語の形式

##### 4.1. 「わ」

日本語記述文法研究会（2003）（以下の例文では日（2003）と略記）によると、日本語の「わ」は気づきを表すような非対話的な用法であり、女性だけが用いるとしている。女性だけが用いる助詞は見出しがたいが、機能的に「わ」に対応する韓国語の形式は終結語尾の「ci」が考えられる。

(25) a. [独話で] あ、そうだわ。あの件、鈴木さんに伝えておくの忘れてた。

(日(2003: 253))

b. [honcasmal-lo] acham, kuleh-ci. ku ken-ey tayhayse myengswu  
ssi-hanthey

[独話-で] あ そうだ-わ。あの 件-に ついて ミヨンス さん-に

cenha-nun ke-l {kkampak-hayssess-ney/ kkampak-hayssess-kwun}.

伝える-現在連体形 こと-を {忘れる-過去時制-なあ/ 忘れる-過去時制-なあ}

「[独話で] あ、そうだわ。あの件についてミヨンスさんに伝えておくの {忘れてたなあ/ 忘れてたなあ}。」

例(25b)のように韓国語において話者の独話では終結語尾の「ci(지)」 「ney(네)」 「kwun(군)」を使って話者の事態把握への気づきや感嘆を表す。

また日本語記述文法研究会（2003）によると、日本語の「わ」は聞き手に対する情報の伝え方を積極的に表すという性質をもたない、非対話的な終助詞なので、この用法の「わ」は独話や心内発話として現れることがあるとしている。同じ場面で韓国語では話者の独話

では終結語尾の「네 ney」を使って話者の事態把握への気づきや感嘆を表す。

(26) a. あ、田中さんだわ。こんなところで何をしてるのかしら。 (日(2003: 253))

b. e? chelswu ssi-ney. ilen kos-eyse mewl

あれ チョルスさん-終結語尾わ こんな 所-で 何を

ha-ko iss-nun ke-ci?

する-て いる-現在連体形 こと-終結語尾

「あれ？チョルスさんだわ。こんなところで何をしてるのかしら。」

例(26b)の「chelswu ssi-ney」においても、韓国語では話者の独話では終結語尾の「ney」を使って話者の事態把握への気づきや感嘆を表す。ただし、以下の例(27b)の「ke-{ya/??ne}-lako」のように、話者が状況証拠による推論を経て「やっぱり」と事態を断定的に把握している場合は、「ney」の使用は不自然に感じられる。

(27) a. やっぱり、留守中にだれか部屋に入ったんだわと思った。 (日(2003: 253))

b. yeksi cip-ul piwu-n sai-ey nwukwunka-ka pang an-ulo

やっぱり 家-を 空ける-過去連体形 間-に 誰か-が 部屋 中-に

tuleo-n ke-{ya/??ne}-lako sayngkak-hayss-ta.

入る-過去連体形 こと-{断定終結語尾/ 終結語尾わ}-と 考える-過去時制-語尾

「やっぱり留守中にだれかが部屋に入ったんだわと思った。」

また日本語記述文法研究会(2003: 254)によると「名詞述語に「わ」が付加される文は、聞き手の存在しない非対話的な環境では自然であるが、対話ではやや容認性が下がることがある」としている。以下の例(28)と(29)を比べてみたい。

(28) a. [独話で] あ、もう3時過ぎだわ。 (日(2003: 254))

b. [honcasmal-lo] a, pelsse sey si-ka cina-ss-ney.

[独話-で] 感嘆詞、もう 3 時-が 過ぎる-過去時制-終結語尾わ

「[独話で] あ、もう3時が過ぎたわ。」

例(28b)において独話では、終結語尾の「ney」を使い、話し手の驚きを表すことは自然である。しかし、以下の例(29b)の話者AとBの間の韓国語の会話において、Aの質問に対しBが答える場合は、「pelsse sey si-ka {cina-ss-e/?cinassney}」のように終結語尾の「ney」を使うのはやや不自然である。例(29b)のBの答えで終結語尾の「ney」を使うと、Aの質問を無視して独り言をつぶやいているように見えるので、対話的な場面での「ney」の出現は不自然に感じるのである。



- (29) a. A: 「今、何時？」  
 B: 「? もう 3 時過ぎだわ」 (日(2003: 254))
- b. A: cikum myech si-ya?  
 今 何 時-断定語尾  
 「今、何時？」  
 B: pelsse sey si-ka {cina-ss-e/?cinassney}.  
 もう 3 時-が {過ぎる-過去時制-断定語尾/ 過ぎる-過去時制-終結語尾わ}  
 「もう 3 時が {過ぎたよ/ 過ぎたわ}」。

#### 4.2. 「な」

日本語記述文法研究会 (2003: 261) によると「な」は丁寧形には接続しにくいという。これは、「な」が聞き手の存在を前提としない、非対話的な性質をもつからであるとしている。

- (30) a. ?私もそう思いますな。 (日(2003: 261))
- b. na-to kulehkey {# sayngkakha-ci-yo/ \*sayngkakha-nun-kwun-yo/  
 私-も そう {思う-終結語尾-敬語終助詞/ 思う-現在連体形-終結語尾-敬語終助詞/  
 \*sayngkakha-ney-yo} .  
 思う-終結語尾-敬語終助詞  
 「私もそう {# 思いますね/ \*思いますよね/ \*思いますよね}。」

例(30b)は話し手自身の考えや意見を披露する場面なので「ci」「kwun」「ney」の使用は非文法的である。ところで以下の例(31b)と(32b)のように話し手の意見ではない、感嘆を表す場合は「ney」「kwun」の使用が可能になる。

- (31) a. ?今日はちょっと肌寒いですな。 (日(2003: 261))
- b. onul-un com {chwup-ney-yo/ chwup-kwun-yo}.  
 今日-は ちょっと {肌寒い-終結語尾ね-敬語終助詞/ 肌寒い-終結語尾ね-敬語終助詞}  
 「今日はちょっと {肌寒いですね/ 肌寒いですね}。」
- (32) a. ?これ、いい曲ですな。 (日(2003: 261))
- b. ike, coh-un {kok-i-ney-yo/ kok-i-kwun-yo}.  
 これ 良い-現在連体形 {曲-コピュラ-終結語尾ね-敬語終助詞/ 曲-コピュラ-終結語尾ね-敬語終助詞}  
 「これ、良い {曲ですね/ 曲ですね}。」

例(31b)と(32b)では、天気と曲についての話し手の感嘆を表すので終結語尾の「ney」「kwun」

の使用は自然である。

日本語記述文法研究会（2003: 261）によると、「な」には、かなり性質の違う2つのタイプがある。一つは、非対話的な性質を持っているタイプである。このタイプは使用者の制限がなく、男性・女性どちらにも用いられる。もう一つは、聞き手に対するくだけた確認を表すものであり、対話的な性質をもっているタイプである。このタイプの「な」はおもに男性が用いるものであると指摘している。また日本語記述文法研究会（2003: 262）によると、非対話的な「な」は、話し手が新たに認識した事態を表すものである。このような「な」は、「ね」に近い意味をもっている。「ね」は聞き手に対する伝え方を表す対話的な終助詞であるが、「な」はそれから聞き手に対する伝え方を表すという機能を取り除いたものである。

(33) a. あ、だれか来たな。 (日(2003: 262))

b. e? nwuka {wa-ss-ney/ wa-ss-kwun}.

あれ だれか {来る-過去時制-終結語尾な/ 来る-過去時制-終結語尾な}

「あれ?だれか {来たな/ 来たな}。」

(34) a. 雨が降っているな。傘、持って出かけなくちゃ。 (日(2003: 262))

b. pi-ka o-ko {iss-ney/ iss-kwun}.

雨-が 降る-て {いる-終結語尾な/ いる-終結語尾な}

wusan kaci-ko ka-ya-keyss-ta.

傘 持つ-て 行く-義務連結語尾-未来時制-断定終結語尾

「雨が降って {いるな/ いるな}。傘、持って出かけなくちゃ。」

例(33b)と(34b)のように、聞き手が存在せず、話し手が目の前に繰り広げられている事態を新たに認識したことを表す時、韓国語では終結語尾「ney」「kwun」を使うということがわかる。ただ、事前の情報がなく、今発見したばかりの事態に対する驚きや感嘆を表現する時は終結語尾「ney」を使う方が自然である。終結語尾「kwun」を使った場合は、例(33)では来客の靴を観察し推理しながら淡々と述べる感じであり、例(34)では驚きがなく（例えば梅雨のシーズン）淡々と雨を眺めながら、もしくは雨音を聞きながら述べる感じである。いずれの場合でも上記の独話で出現する日本語の「な」が担当する機能を、韓国語では終結語尾の「ney」「kwun」が担当することがわかる。

日本語記述文法研究会（2003: 262）によると、非対話的な「な」が対話の中で用いられることもあり、対話で用いられる場合でもこのような「な」は聞き手に伝えることを強く意識せず、感情や想起したことを独話的に述べるという伝え方になると指摘している。

(35) a. 何か飲みたいな。ねえ、喫茶店にでも入らない？ (日(2003: 262))

b. [honcasmal-lo] mwenka com masi-ko siph-kwun.

[sangtaypang-eykey]

[独話-で] 何か ちょっと 飲む-て たい(願望)-終結語尾な。 [聞き手-に]

issci, wuli khaphey-lato tuleka-ci anhullay?

間投詞ねえ 私たち カフェー-にでも 入る-て しない

「[独話で]何か飲みたいな。[聞き手に]ねえ、私たちカフェーにでも入らない？」

例(35a)と(35b)それぞれにおける二つの文は、前者は独白、後者は聞き手への発言となっている。例(35a)の日本語では前者の文に「な」が使われている一方、例(35b)の韓国語においては「kwun」が使われていて、話し手が淡々と自分の体の状態（喉が渴いている等）を観察しながら述べている感じである。ここで二つの文の間で「独白」から「聞き手への発言」へ発話のモードが切り替わっていることがポイントになる。

#### 4.3. 「なあ」

一方、日本語記述文法研究会（2003）によると、「なあ」は非対話的な性質をもっているので、丁寧形には接続しにくいと説明している。

(36) a. たくさん食べたなあ。お腹は大丈夫かい？ (日(2003: 263))

b. [honcasmal-lo] manhi-to mek-ess-ney. [sangtaypang-eykey] pay-nun

[独話-で] 沢山-も 食べる-過去時制-終結語尾 [聞き手-に] お腹-は

kwaynchanh-a?

大丈夫-かい(語尾)

「[独話で] たくさん食べたなあ。[聞き手に] お腹は大丈夫かい？」

例(36)では独話の部分は丁寧形ではないため日本語では終助詞「なあ」が、韓国語では終結語尾の「ney」が使われて非対話的に話し手の詠嘆を表している。しかし、以下の例(37a)のように、非対話的な場面で「なあ」は丁寧形には接続しにくい。

(37)=(5) a. ?たくさん食べましたなあ<sup>6</sup>。 (日(2003: 263))

b. manhi-to { # mek-ess-ney-yo/ # mek-ess-supnita-kulve }

沢山-も 食べる-過去時制-終結語尾-終助詞/ 食べる-過去時制-聞き手敬語語尾-終助詞

「たくさん { # 食べましたね/ # 食べましたなあ }。」

<sup>6</sup> 男性によるおじさんキャラとしての発話なら容認度の面でさほど不自然ではないと思われる。

一方、上記の例(37b)において韓国語では終結語尾「ney」は終助詞「yo」を伴い、丁寧形として出現可能であるが、丁寧形になると独話的ではなくなる。また終助詞「kulye」を使って聞き手に対する親近感を伴う詠嘆を表すことができるが、独話では「kulye」は出現しない。終助詞「kulye」を使うと聞き手への伝達を意図することになるのであり、終助詞「kulye」は非対話的な性質は持たないことがわかる。

日本語記述文法研究会（2003: 264）によると、「なあ」は、ある事態を認識したことから引き起こされる感情の高まりを詠嘆的に表す終助詞である。ここで詠嘆の表現は、一般に、聞き手への伝達を意図するものではないので、「なあ」は独話や心内発話のような非対話的な環境に現れるのが基本であるとも指摘している。また対話で用いられる場合も、それを話し手に伝えることが積極的に表されるわけではないとのことである。

(38) a. もう仕事終わったの？ すごいなあ。

b. pelsse il-ul ta kkuthnay-ss-e? [honcasmal-lo] {koyngcangha-n ke-l/  
 もう 仕事-を 全て 終わる-過去時制-語尾 [独話-で] {すごい-現在連体形 こと-を/  
 koyngcangha-ney/ koyngcangha-kwun}.  
 すごい-終結語尾なあ すごい-終結語尾なあ

「もう仕事終わったの？ [独話で] {(なんて) すごいこと/すごいなあ/すごいなあ}。」  
 例(38a)と(38b) それぞれにおける二つの文は、前者は聞き手への質問、後者は独白となっている。例(38a)で日本語では「なあ」が使われている一方、例(38b)の韓国語においては「ney」が使われる場合は話し手の驚きを、「kwun」が使われる場合は話し手の淡々とした分析を表している。このような韓国語の談話において、1番目の聞き手への質問文から2番目の独話に切り替わった際に、文末に終結語尾の「ney」と「kwun」が出現し、話し手自身に対して事態認識上の驚き・分析という情報を再認識させる情報管理機能を担うことがわかる。

以上の考察から日本語と韓国語の情報管理機能は両言語の対照を通してこそより明確になることがわかった。

## 5. 結論

本研究では、日本語と韓国語の終助詞と終結語尾の対照を通してこそ両言語の情報管理機能がより明確になることを示した。具体的には次のようなことがわかった。

第一に、日本語の終助詞「ね」「よ」は、聞き手を必要とする対話でのみ出現し、話し手の事態認識上の感嘆・驚きを聞き手に伝えるという情報管理機能を担う。また日本語の終助詞「ね」「よ」は独話や心内発話の中では現れない。

第二に、日本語の終助詞「わ」「な」「なあ」は、話し手の独話や心内発話の中で出現し、話し手自身に対して、事態認識上の感嘆・驚きという情報を再認識させる情報管理機能を担う。

第三に、韓国語の終結語尾の「kwun」「ney」「ci」は、対話の中でも出現可能であるが、話し手の独話や心内発話の中でも出現し、話し手自身に対して、事態認識上の分析・感嘆・驚き・確認という情報を再認識させる情報管理機能を担う。

第四に、韓国語の「kulay」は用言の活用形、「kulye」は終助詞であることから、現代韓国語の終助詞は「yo」と「kulye」のみを認める。それぞれの用法として終助詞「yo」は尊敬の意味、「kulye」は先行文脈の強調である。

第五に、韓国語の丁寧形終助詞の「yo」と、終助詞「kulye」は独話や心内発話においては使われず、必ず聞き手が存在する際に現れる。ただし、事態認識上の分析・感嘆・驚き・確認という情報を再認識させる情報管理機能は担わない。

#### <参考文献>

- 金善美 (2018) 「韓国語と日本語の独話における終助詞・終結語尾と情報管理機能」, 朝鮮学会第 69 回大会, 於: 天理大学.
- 定延利之 (2007) 「キャラ助詞が現れる環境」金水敏編『役割語研究の地平』: pp.27-48, くろしお出版.
- 田窪行則 (1987) 「統語構造と文脈情報」『日本語学』vol.6, 明治書院.
- 田窪行則 (1989) 「名詞句のモダリティ」仁田義雄・益岡隆志編『日本語のモダリティ』pp.211-233, くろしお出版.
- 田窪行則・金水敏 (1996) 「複数の心的領域による談話管理」『認知科学』Vol.3, No.3, pp.59-74, 日本認知科学会.
- 田窪行則 (2006) 『日本語条件文とモダリティ』, 京都大学大学院博士論文.
- 日本語記述文法研究会 (2003) 『現代日本語文法 4 第 8 部モダリティー』, くろしお出版.
- 益岡隆志・田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法—改訂版—』, くろしお出版.
- 국립국어연구원(国立国語研究院) (1999) 『표준국어대사전』 (標準国語大辞典) .
- 한용운 (2003) 『언어 단위 변화와 조사화』 (言語単位の変化と助詞化), 한국문화사 (韓国文化社).

Yukinori Takubo, and Satoshi Kinsui (1997) Discourse Management in terms of Mental Spaces.  
*Journal of Pragmatics*, Vol.28, No. 6, pp.741-758.

(きむそんみ、天理大学国際学部)